

平成28年度 総括評価表

(評定) A:十分達成できた, B:概ね達成できた, C:達成できなかった

徳島県立城ノ内高等学校

重点課題	重点目標	自己評価		学校関係者評価	次年度への課題と今後の改善方策
		評価指標と活動計画	評価 * ()は昨年度との比較で、増減ポイントを表す	学校関係者の意見	
リーディング ハイスケール事業の推進① 中高一貫教育の推進	(全校レベル) 中高それぞれが相乗効果を生み出し、本校の活性化に役立てる。 (下位組織レベル) 中学生と高校生の良好な関係構築。中高合同での月例運営委員会や職員会議の活性化。 PTA活動の充実。	評価指標 「学校生活や学校の教育活動全般に満足している」と答えた生徒・保護者が70%以上。 「勉学・部活動・学校行事など豊かな教育活動が行われている」と答えた生徒・保護者が70%以上。 「PTA活動や学年部会は活発である」と答えた保護者・教職員が70%以上。 「高校生は中学生の模範となるような学校生活を送れている」と答えた生徒・保護者・教職員が50%以上。 「中学生と高校生の関係は良好である」と答えた生徒が50%以上。	評価指標による達成度 「学校生活や学校の教育活動全般に満足している」と答えた生徒80%(-2p)・保護者85%(-5p)。 「勉学・部活動・学校行事など豊かな教育活動が行われている」と答えた生徒92%(+2p)・保護者88%(-7p)。 「PTA活動や学年部会は活発である」と答えた保護者85%(-1%)・教職員98%(±0)。 「高校生は中学生の模範となるような学校生活を送れている」と答えた生徒53%(+5p)・保護者77%(-2p)・教職員82%(+13p)。 「中学生と高校生の関係は良好である」と答えた生徒65%(+5p)。	総合評価 (評定) A (所見) 評価指標上の目標値は、すべて達成できた。中高合同で行事・作業・部活動などを行うことで、中高生の交流が図れ、中学生を意識し、模範となり良好な関係を築こうとする高校生が若干ながら増えてきているように見える。 ただ、依然として生徒・保護者・教職員間の意識の乖離が大きい。教員について、中高合同の活動についてさらに踏み込んだ取組や組織づくりが必要である。	6年間を通じた進路の考え方や学習の方法について、受験を経験した高校生が中学生に直接教えるような機会をつくるべきである。 ①併設型中高一貫教育のメリットとは何かを検証して、城ノ内中からの進学生と他の中学からの進学者が互いに刺激し合いながら成長できるような雰囲気・体制づくりを推進する。 ②中学と高校について生徒間だけでなく、教職員間の相互交流をもっと活発に行い、生徒指導に関する生徒情報を共有するなど連携を密にする。 ③PTAの活動についても中高の連携をさらに進める。
		活動計画 ①中高職員合同の運営委員会を月1回以上、PTA役員会を年4回以上開催する。 ②城ノ内祭等の行事を中高合同で行う。 ③部活動(一部)で中高合同の練習・活動を行う。	活動計画の実施状況 ①中高合同で運営委員会を月1回以上、PTA役員会・理事会を年4回開催し、そのほかにも職員会議、権教育研修会・教育相談研修会などを開催し、共通理解を図った。 ③城ノ内祭・予餞会・防災避難訓練・人権教育映画会・総合学習発表会などを中高合同で開催した。 ③城ノ内祭・予餞会・防災避難訓練・人権教育映画会・総合学習発表会などを中高合同で開催した。 ④美術部や演劇部など6部で合同練習を行った。		
リーディング ハイスケール事業の推進② 確かな学力と進路観の育成	(全校レベル) 授業の充実改善に積極的に取り組み、きめ細かな進路指導を行う。 (下位組織レベル) 研究授業・授業研究会の実施。 進路別集会や学年集会の実施。 進路相談体制の確立。	評価指標 「教員は学力を伸ばす教育を行っている」と答えた生徒・保護者・教職員が80%以上。 「教職員はわかる授業を目指して授業を工夫している」と答えた教職員が80%以上。 「生徒の希望を尊重したきめ細やかな進路指導ができている」と答えた生徒・保護者が80%以上。 「先生は生徒の進路相談や悩みについてよく相談のしてくれる」と答えた生徒・保護者・教職員が80%以上。	評価指標による達成度 「教員は学力を伸ばす教育を行っている」と答えた生徒81%(±0)・保護者75%(-7p)・教職員92%(+1p)。 「教職員はわかる授業を目指して授業を工夫している」と答えた教職員が96%(+22p)。 「生徒の希望を尊重したきめ細やかな進路指導ができている」と答えた生徒79%(+2%)・保護者が77%(+1p)。 「先生は生徒の進路相談や悩みについてよく相談のしてくれる」と答えた生徒77%(+1p)・保護者80%(+5p)・教職員92%。	総合評価 (評定) B (所見) 各評価指標とも目標をほぼ達成しているが、「学力を伸ばす教育の実践」の項目で保護者評価が低下していて、生徒・保護者の評価と教職員の評価に乖離が見られる。客観的に授業を振り返り、わかる授業、学力向上を目指した授業改善に取り組む必要がある。 「進路・悩み相談」の評価においても、目標はほぼ達成し、良好な評価ではあるが、ここでも生徒・保護者の評価と教職員の評価に乖離があり、意識の差の原因を探るとともに、教職員への進路指導方針の説明や進路指導体制の周知をいっそう充実させる必要性がある。 学年集会、進路講演会などは例年どりの実施であったが、生徒の反応は概ね良好である。 授業評価・学習実態調査について、回数は実施できているが、実施だけに留まらないように、結果の検証、事後対応についての時間の確保が課題である。	「先取り学習」により、生徒の多忙感が増しているようであるので、全体の学校生活の中のバランスを考えて取捨選択をして負担感を少なくすることも必要である。 中高一貫で、どうしても中3・高1中だるみになりがちなので中高一家のメリットを生かした対策、働きかけをして欲しい。 ①センター試験に変わる新テストのプレテストが実施されるなど、進路指導の面でもおおきな変化が待っている。いち早く正確な情報に接し、よりよい進路指導体制を構築するためにも、関係教職員の情報交換の機会を増やす必要がある。 ②放課後補習の時期やその実施科目・方法などについて、その効果を検証しつつ広く議論していく必要がある。 ③学習実態調査や進路希望調査など様々なデータの有効活用の方策を考えていく。 ④進路情報に対する生徒や保護者のニーズの把握に尽力し、一人ひとりの生徒を大切に、きめ細かな進路指導体制を確立に努める。 ⑤週35時間授業に適した教育課程の検討を引き続き行うとともに、授業時数を確保し、先取り学習や単位制のメリットを最大限に生かした進路指導を確立する必要がある。
		活動計画 ①研究授業・授業研究会を中高合同で実施する。 ②授業評価を年2回実施する。 ③進路に関する学年集会や講演会、及び大学講師等による出張講義を実施する。 ④学習実態調査と進路希望調査を実施する。	活動計画の実施状況 ①中高合同での研究授業・授業研究会を年11(昨年7)回実施した。また、アクティブラーニングについての研修会を外部から講師を招き2回行った。 ②授業評価を2回実施した。 ③計画的に学年集会や講演会等を実施した。 ・学年集会(4年6回, 5年9回, 6年11回) ・進路講演会(4年1回, 5年1回, 6年1回) ・出張講義(4年1時間, 5年2時間) ④学習実態調査(4年9回, 5年9回, 6年6回)及び、進路希望調査(4年3回, 5年4回, 6年2回)実施した。		

平成28年度 総括評価表

(評定) A:十分達成できた, B:概ね達成できた, C:達成できなかった

徳島県立城ノ内高等学校

重点課題	重点目標	自己評価		学校関係者評価	次年度への課題と今後の改善方策
		評価指標と活動計画	評価 * ()は昨年度との比較で、増減ポイントを表す	学校関係者の意見	
人権教育の推進	(全校レベル) すべての教育活動で人権教育の推進を図る。	評価指標 「すべての教育活動の中で人権に配慮した指導が行われている」と答えた生徒・保護者・教職員が80%以上。 「生徒は自他を大切に思う心や態度が育っている」と答えた生徒・保護者・教職員が80%以上。	評価指標による達成度 「すべての教育活動の中で人権に配慮した指導が行われている」と答えた生徒72%(±0)、保護者80%(-8p)、教職員94%(+7p) 「生徒は自他を大切に思う心や態度が育っている」と答えた生徒68%(-8p)、保護者83%(-6p)、教職員84%(+8p)	総合評価 (評定) B (所見) 評価指標上の目標値は、ほぼ達成できている。しかし、「生徒は自他を大切に思う心や態度が育っている」の項目で生徒・保護者共に昨年度までの評価を下回り、教職員の評価との乖離が見られた。SNS上の書き込みをめぐっての友人間トラブルなどが問題になったことも影響しているようである。生徒・保護者の意識を踏まえて、教職員にも更なる危機意識が必要となろう。	生徒からの主体的に出てきた課題意 識をテーマとして取組を進めるべきである。 3年・6年がそれぞれに上級生として率先垂範すれば、下級生も従っていくので、重点的な指導をしたらよいのではないか。
	(下位組織レベル) ホームルーム活動や学校行事の充実。	活動計画 ①人権ホームルーム活動の研究授業、事前研究会を実施する。 ②人権意見発表会を実施する。 ③人権問題講演会等を実施する。 ④職員研修を充実する。	活動計画の実施状況 ①各学年で研究授業を実施するとともに、毎回、事前研究会を学年別実施した。 ②全校生徒を対象に人権教育意見発表会を実施した。 ③5年生を対象に人権問題講演会を実施した。 ④中高合同の校内研修会を2回、地域研修会を1回実施した。		
基本的な生活習慣の確立と道徳性の涵養	(全校レベル) 学校は家庭と連携し、生徒の基本的な生活習慣の確立を図る。また、いじめを絶対許さない姿勢を示し、いじめの未然防止に努める。	評価指標 「学校は家庭と連携し、生徒の基本的な生活習慣の確立に努めている」と答えた保護者・教職員が70%以上。 「生徒は挨拶ができています」と答えた生徒・保護者・教職員が70%以上。 「城ノ内生としての自覚を持った行動ができている」と答えた生徒・教職員が70%以上。 「学校生活全般において時間が守られている」と答えた生徒・保護者・教職員が70%以上。 「服装頭髪について校則が守られている」と答えた生徒・保護者・教職員が70%以上。	評価指標による達成度 「学校は家庭と連携し、生徒の基本的な生活習慣の確立に努めている」と答えた保護者73%(-3p)・教職員86%(±0)。 「生徒は挨拶ができています」と答えた生徒54%(-9p)・保護者80%(-4p)・教職員42%(-2p)。 「城ノ内生としての自覚を持った行動ができている」と答えた生徒71%(-1p)・教職員が84%(+7p)。 「学校生活全般において時間が守られている」と答えた生徒82%(+5p)・保護者89%(-4p)・教職員98%(+7p)。 「服装頭髪について校則が守られている」と答えた生徒70%(+1p)・保護者87%(-4p)・教職員96%(+11p)。	総合評価 (評定) B (所見) 評価指標の達成度について、項目間での差の違いがでている。全体的な基本的習慣の確立や家庭と学校との連携、時間の遵守や服装等については概ね良好な評価であり、まずは落ち着いた学校生活を送れていることがわかる。しかしながら「挨拶の奨励」については、生徒・教職員の評価共に低く、更に前年を下回っている。両者ともに不十分であると認識できていることが伺える。挨拶は社会生活や円滑なコミュニケーションの基本であり、毎日の学校生活の中で更に奨励を進めていく必要がある。学校生活に関するアンケート(いじめを含む)を定期的実施、いじめの把握と早期対応に努めているが、アンケートに出てこない事案もあり授業中、休み時間等の観察や情報共有などさらに踏み込んだ継続的な取組が必要である。	・そうじの仕方の指導や、その結果についての生徒へのフィードバックが大切である。 ・あいさつなどは家庭で教育の役割が大きい、自発的にできるように、その意義や大切さについてもっと情報提供もできるのではないかな。 ・スマホの普及で対面のコミュニケーションが減っているようであり、新しい対応が必要である。
	(下位組織レベル) 「挨拶の励行」の徹底。 【城ノ内生としての自覚ある行動】の推進。 服装等初指導の徹底。 積極的ないじめの認知と対応。	活動計画 ①挨拶指導を徹底する。 ②遅刻者は「遅刻カード」を提出する。 ③自転車の駐輪のしかたを指導する。 ④服装頭髪検査を定期的実施する。 ⑤学校生活に関するアンケート(いじめを含む)を年2回実施する。	活動計画の実施状況 ①全教職員が直接指導を行った。また、月に1度生活委員によるマナーアップ運動を行った。 ②授業遅刻も含めたすべての遅刻者は「遅刻カード」に理由を記入し、教頭の指導を受けてから入室させた。 ③年度当初は係の者が、それ以後は日直の教員が直接指導を行った。また、盗難防止のため自転車の鍵かけを呼びかけた。 ④定期的(学期に2回程度)に、全校集会や学年集会で服装頭髪検査を実施した。 ⑤いじめの項目を含む学生生活に関するアンケートを年2回実施し、内容について検討、面談等で対応した。		

平成28年度 総括評価表

(評定) A:十分達成できた, B:概ね達成できた, C:達成できなかった

徳島県立城ノ内高等学校

重点課題	重点目標	自己評価		学校関係者評価 学校関係者の意見	次年度への課題と 今後の改善方策
		評価指標と活動計画	評価 * ()は昨年度との比較で、増減ポイントを表す		
防災・安全 教育の徹底	(全校レベル) 防災・安全教育を 徹底し、災害へ備 えるとともに、事故 防止に努める。	評価指標 「学校は防災意識の高揚に努めるとともに、 防災への取組を推進している」と答えた生 徒・保護者・教職員が70%以上。 「交通ルールや交通マナーが守られてい る」と答えた生徒・教職員が70%以上。	評価指標による達成度 「学校は防災意識の高揚に努めるとともに、防災への 取組を推進している」と答えた生徒67%(+3p)・保護者 75%(-6p)・教職員84%(+6p)。 「交通ルールや交通マナーが守られている」と答えた生 徒55%(+1p)・教職員が64%(-1p)。	(評定) B	学校の立地も考え て、しっかり取り組 んでほしい。
	(下位組織レベル) 防災意識の高揚 に努め、防災への 取組推進。 交通ルールや交 通マナーの遵守に 向けての取組推 進。	活動計画 ①防災避難訓練(火災・地震・津波)を年2 回実施する。 ②毎月1回交通マナーアップ運動を行う。 ③交通安全教室を実施し、安全教育の徹底 を図る。	活動計画の実施状況 ①防災避難訓練(地震・津波)を2回、Jアラートによる退 避行動訓練を2回実施した。避難訓練では、災害発生 の想定時間を変えるなど工夫をした。 ②毎月1回、生徒会役員・生活委員と教員による交通マ ナーアップ運動を展開した。また警察と連携し、自転車 運転マナーや防犯意識向上のキャンペーンを行った。 ③外部講師による交通安全教室を実施した。	(所見) 「防災意識の高揚と、防災への取組推進」に ついては、評価目標を、概ね達成できている。 保護者・教職員は約8割が評価しているが、生 徒は約7割であることから、生徒の意識が高い ことがわかる。防災避難訓練は2回実施し、ス ムーズに行うことができた。 「交通ルールや交通マナーの遵守」に関し ては、昨年度なみではあるが、やや低い評価に留 まっている。近隣の苦情や軽微な交通事 故も減らず、交通安全意識の向上は喫緊の課 題であるが、たびたびの指導が生徒の意識に 反映し指数が下がっていることも考えられる。	
環境教育の 推進	(全校レベル) 環境教育への取 組を推進し、地域 の環境美化にも貢 献する。	評価指標 「清掃に積極的に取り組み、美しい環境が 維持できている」と答えた生徒・教職員が 80%以上。 「込みの分別や節電・節水に取り組めてい る」と答えた生徒・教職員が80%以上。	評価指標による達成度 「清掃に積極的に取り組み、美しい環境が維持できている」と答えた生徒67%(-1p)・教職員74%(+2p)。 「ゴミの分別や節電・節水に取り組めている」と答えた生 徒66%(+1p)・教職員74%(-14p)。	(評定) B	電気使用量や使用 水量の数値を明 示するなど具体的 に現状と取組の効 果をフィードバック しながら推進する ことが必要である。 漫然とした取組で はなく、チェックや評 価をきちんとするこ とが大切である。 快適さに慣れ過ぎ ている面のあるの ではないか。
	(下位組織レベル) 清掃への積極的 な取組、美しい環 境の維持。 ゴミの分別や節 電・節水への取 組。	活動計画 ①日頃からゴミの分別を推進する。 ②吉野川堤防清掃活動や学校周辺清掃活 動に年3回以上取り組む。 ③日常的に節電・節水に努める。	活動計画の実施状況 ①教室、職員室等、全ゴミ箱で分別回収の徹底に努め た。 ②吉野川堤防清掃活動を、中高合同で、7月、10月、12 月の3回実施した。また、外庭清掃にも力を入れ、30分 の大掃除を3回、除草作業も2回実施した。 ③整美委員を中心に水漏れか所のチェックや水道の蛇 口点検を行い、クラス生徒への節電・節水を喚起した。	(所見) 清掃についての評価指標の達成度について は、大幅に向上した昨年同様はほぼ同様で、引 き続き清掃の時間に音楽を流して清掃への積 極的な取組を促した効果が出ているようであ る。生徒の意識は評価指標に達しておらず、 更に改善の余地がある。 また、ゴミの分別については教職員の評価が 大きく下がり、生徒との意識の乖離がみられ る。各クラスのペットボトルと空き缶の分別状 態やエアコン等の使用について、教職員がま だまだ改善・指導が必要であると考えられる 状態であることがわかる。	
主権者教育 の推進	(全校レベル) 公民科の授業と特 別活動を中心とし て、主権者教育の 推進を図る。	評価指標 「公民の授業や学校行事、ホームルーム活 動等を通して、政治や選挙への関心や、政 治的素養が高まった。」と答えた生徒・教職 員が70%以上。	評価指標による達成度 「公民の授業や学校行事、ホームルーム活動等を通し て、政治や選挙への関心や、政治的素養が高まった。」 と答えた生徒53%・教職員80%。	(評定) B	公民の授業を中心 に、公平性を保つ て実施してほしい。
	(下位組織レベル) 関連授業・ホーム ルーム活動や学 校行事の充実。	活動計画 ①主権者教育の授業を公民科やホーム ルーム活動で実施する。 ②主権者教育講演会を実施する。	活動計画の実施状況 ①公民科を中心に政治的素養に資する授業を行った。 ②六年生を対象に講演会を実施した。	(所見) 今年度重点目標に新たに加えられた項目で ある。多くの資料やパンフレットなどが準備され ていたが、授業の方法や、政治的中立の立場 をどう捉えるかなどこれからも明確にしていく課 題がある。手探り状態で進められている状況 と、特に4・5年生の意識の低さが生徒の低調 な評価に繋がっていると思われる。	

平成28年度 総括評価表

(評定) A:十分達成できた, B:概ね達成できた, C:達成できなかった

徳島県立城ノ内高等学校

重点課題	重点目標	自己評価		学校関係者評価	次年度への課題と今後の改善方策	
		評価指標と活動計画	評価 * ()は昨年度との比較で、増減ポイントを表す	学校関係者の意見		
特別活動の活性化	(全校レベル) 学校行事を充実させ、学校全体を活性化する。	評価指標 「学校行事は充実しており、生徒が生き生きと取り組んでいる」と答えた生徒・保護者・教職員が70%以上。 「部活動は活発である」と答えた生徒・保護者・教職員が70%以上。	評価指標による達成度 「学校行事は充実しており、生徒が生き生きと取り組んでいる」と答えた生徒90%(+4p)・保護者90%(-1p)・教職員96%(+9p)。 「部活動は活発である」と答えた生徒82%(+4p)・保護者85%(+2p)・教職員82%(+8p)。 「部活動と勉強の両立を図ろうとしている」と答えた生徒85%(+1p)・保護者85%(±0)・教職員97%(+5p)。	総合評価 (評定) A (所見) 評価指標上の目標は、高い水準ですべて達成できている。 学校行事はほとんどの生徒が楽しみにしており、主体的・積極的に取り組めたことが高評価に繋がったと思われる。 部活動は、7時間授業により活動時間が少なくなったが、集中した活動で、全国大会で入賞するなど、成果をあげた部もある。 部活動と勉強の両立に関しては、努力をしている生徒が多く、保護者、教職員ともその頑張り認め応援している。	部活動との両立にはメリハリが大切である。長期のオフをとることを考えても良いのではない。 短時間で練習の質を上げるために、理論的に思い切った方策の転換をすることも必要である。	①7時間授業が定着し、練習時間の制約が増えたことは否めないが、練習への集中度を上げて対応している。これからもますます効率よい練習を工夫し、部活動と勉強の両立ができるように各部が努めていく。週一回以上のノー部活デーを徹底する。 ②学校行事においては、生徒の安全に留意して計画する。特に城ノ内祭模擬店における今年度の指導を定着させ、食中毒の危険性をさらに低減させる。
	(下位組織レベル) 学校行事の内容の充実。部活動の活性化。部活動と勉強の両立。	活動計画 ①学校行事の内容を充実させる。 ②部活動を活性化する。 ③考査前の活動自粛など、部活動と勉強の両立体制を確立する。	活動計画の実施状況 ①文化祭、体育祭、球技大会などの学校行事は、生徒会主体に運営され、生徒も積極的に参加した。 ②部活動加入率は4年87(昨年90)%、5年88(昨年93)%、6年89(昨年83)%[4月末現在]。 ③全部活動で、考査期間中の活動を届出制とし、試合等が近い部に限り原則1時間以内という制約を設けて実施した。			
開かれた学校づくりの推進と郷土愛を育む教育の推進	(全校レベル) ホームページを充実し、学校を公開する機会をつくる。地域資源を生かした多様な体験・交流活動を行う。	評価指標 「ホームページは本校を理解してもらうのに役立つ」と答えた保護者が70%以上。 ホームページの更新にすべての教員が関わり、少なくとも週に一度は更新する。 「中学校体験入学や学校公開の日、文化祭の公開は本校を理解してもらうのに効果的である」と答えた保護者・教職員が70%以上。	評価指標による達成度 「ホームページは本校を理解してもらうのに役立つ」と答えた保護者が79%(-7p)。 ホームページの更新にすべての教員が関わり、少なくとも週に一度は更新する。 「中学校体験入学や学校公開の日、文化祭の公開は本校を理解してもらうのに効果的である」と答えた保護者90%(+5p)・教職員81%(+3p)。 「地域資源を生かした多様な体験・交流活動が行われている」と答えた生徒57%・保護者78%・教職員が66%。	総合評価 (評定) B (所見) 開かれた学校づくりに関する評価指標の目標は、ほぼすべて達成できている。体験入学、文化祭や学校公開は、本校を理解してもらうのに効果的であると判断できる。今後も充実させながら継続していく必要がある。 昨年度より、9月と12月の2回、本校において中学生とその保護者、教員対象の高校説明会を開催しており、学校を理解してもらうのに役立っている。 また、ホームページも活発な情報発信を継続できており、内容も充実している。このため、へのアクセス件数も39%増加した昨年度よりは若干減ったが、高い水準を維持している。 今年度より項目として入った「地域に根ざした活動」については、特に、生徒の評価が低く、本年度ヨット研修が実施できなかったことや、全県一区で県内各地から登校している生徒が「地域」の意味を理解しにくいことが影響しているように考えられる。	地域に根ざす人材作りは社会・企業人から見ても非常に大切である。本校の伝統的な地域資源を活用した体験的な活動は、郷土愛を育むのに非常に有効であると考えられるので継続してほしい。 ①本校の理解、周知に向け、中学生体験入学の参加者がさらに増えるように、日程を検討するとともに、内容の一層の工夫充実を図り、広報活動にも力を入れる。 ②懸案である高校からの入学志願者増を実現するために、中学校での進学説明会でリーディングハイスクール事業等の積極的なPR活動を行うとともに、本校での高校説明会開催を継続する。 ③ホームページを更に充実したものにする。 ④スクールガイドをさらに充実させる。	
	(下位組織レベル) ホームページの更新回数の増加。中学生体験入学や学校公開の日の実施。城ノ内祭の公開。地域に根ざした体験活動・行事の実施。	活動計画 ①ホームページを随時更新する。 ②スクールガイドを発行し、中学生体験入学を実施する。 ③「学校公開の日」を実施する。 ④文化祭を公開する。 ⑤自然体験活動やヨット研修、ゴルフ研修など地域資源を生かした多様な行事を実施する。	活動計画の実施状況 ①ホームページへの年間アクセス数は563,367回(昨年比4%減)、総アクセス数2,805,671回(2017/2/8現在) ②スクールガイドを発行した。中学生体験入学への参加者428名(昨年364名)。 ③学校公開の日への参加者550(昨年555)名。 ④文化祭を公開し、2056(昨年1689)名が来校した。 ⑤4年生で自然体験活動、6年生でゴルフ研修を実施した。その他、吉野川堤防清掃を実施した。			